

若事研本報

No. 2 0 6

編集・発行

岩手県公立小中学校

事務職員研究協議会

総務部

令和元年11月1日

第51回全国公立小中学校事務研究大会岡山大会

令和元年8月8日(木)～9日(金) 会場：岡山シンフォニーホール他

おにたいじ
キャッチフレーズ「晴れの国からいざ課題解決!」、大会テーマを「ビジョンを実現する学校経営戦略」として標記大会が開催され、本県からは32名の方々が参加されました。

《参加者の感想》

今年度の全国公立小中学校事務研究大会は、第9次研究中期計画の初年度として「ビジョンを実現する学校経営戦略」をテーマに設定し、開催されました。全体研究Ⅰでは、これからの学校の在り方、学びの在り方を「ビジョンと戦略」という視点から考える提案がありました。

学校経営ビジョンを、児童生徒・教職員・保護者・地域の協働により策定し共有することの重要性、ビジョンを実現するために、経営資源をリソースマネジメントすることの重要性、そこに関わる事務職員・共同学校事務室に求められる役割や資質・能力について考えました。子どもの幸せを念頭に置き、教職員も幸せにするための働き方改革を進める。事務職員は、学校や教職員の思いを形にする学びの環境デザイナーになるべき、との助言が印象に残りました。参加した本部研究分科会では、前日の提案をもとに「共同事務室が行うリソースマネジメントの在り方」「地域とともにある学校の経営ビジョンを実現する事務職員」の柱で討議が進められました。中学校区を一つとして、統一したビジョンのもと、協働を進めることが大事である。ビジョンを実現するためには、情報を共有し、思いを共有することが重要である、そのためには、コミュニケーション力や提案力が求められる、との助言がありました。“リソースマネージャー”“学びの環境デザイナー”をめざしながら、分科会の中で交流した、学校経営ビジョンを実現するために、私は事務職員として、教育条件整備をします。そのためには、調整力・交渉力が必要です。これらの向上に、まずは取り組んでいきたいと思えます。



一戸町立一戸中学校 事務長 荒木 裕之

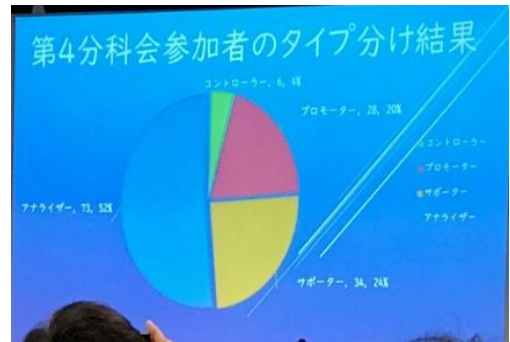
私が参加した第3分科会鳥取支部の発表は、『転機はここだった。「やってみよう!」から始まった事務職員の成長』というテーマでした。求められる事務職員像と現実とのギャップをどのように埋めていくか、その中でどのように会員が成長していくか。その取り組みのなかで「目標達成シート」を全会員が作成し、目標達成に向け周囲からのアドバイスをもらいながら戦略を考える。また、毎年数名がサイトへの掲載をし、会員の意識向上や、掲載内容を参考にしながら目標達成に向け役立てるという取り組みがありました。この事業は、私のような若手職員にとって、ベテラン層の取り組み、同じ年代の取り組みなどを閲覧出来るため、大変良い経験になり、さらに同じ取り組みをしている方の別の視点からの考えも知ることが出来る非常に有効な取り組みだと思いました。

(次のページへ続く)

また、助言者の発言にあった、「人材育成」とは自ら前進できる人を育てることでありその中で従来のティーチングではなくコーチングに変えていくことが大切である、という言葉がとても印象に残っています。ティーチングでは受け身となり、考える事などがなく行動してしまうため、これからはコーチングをし、相手にも考えさせることによって、自ら前進できる人を育成できる、とのことでした。採用3年目の私にも後輩職員ができたので、この学びを活かしながら何かアドバイスなどをできればいいなと思います。

雫石町立七ツ森小学校 主事 小林 輝之進

「ビジョンの実現に向けて“楽しまねば Shimane★Ver.”」一戦略の実効性を高めよう一をテーマとした、第4分科会（島根）に参加しました。全体研究会で提案された第9次研究中期計画の初年次課題「ビジョンと戦略」に基づき、「チーム学校」の一員として、学校経営ビジョンの実現に向け戦略の実効性を高めるための関わり方についての提案がありました。学校経営ビジョン実現に向けて、マネジメントシートを活用したPDCAサイクルを軸に研究を続けてきた島事研では、会員の意識調査から人との関わり方が働き方や意欲に大きく影響を与え、チームとして学校を作り上げるうえで、コミュニケーション能力が重要であると再認識し、戦略の実行性を高める関わり方の手段としてコミュニケーションスタイルに視点をおいた研究提案がなされました。また、グループ討議（戦略会議）は、「タイプ分けTM」（コミュニケーションスタイルの分類）を用いてタイプ別に分かれ、【100万円補助金活用ワーク】と題して行われました。タイプや経験、勤務地により発想や戦略の切口も様々で、新たな挑戦や発見が沢山あり、各グループ時間が足りないくらいの盛り上がりとなりました。



円卓ボード（えんたくん）を使ってグループワーク

人には様々なタイプがあり、職場には様々な職種があります。グループワークを通し、一人配置が多い事務職員としては、自分と相手のスタイルを理解することが戦略の第一歩となり、個々のスタイルを踏まえてそれぞれの良さや強み、違いを生かし、目標を達成するためのビジョンと戦略を共有して協働することが非常に重要だと学ぶことができました。「つかさどる」事務職員の役割を最大限有効に果たすために、コミュニケーションは必要不可欠な能力であるということを再確認した分科会でした。

一関市立一関東中学校 主査 瀧澤 美枝

去る8月8日～9日に開催された、全事研岡山大会に参加させていただきました。大阪・福岡に続いて、自身3回目となる全国大会参加。以前は「暑い遠隔地での研修」と覚悟して行ったことが思い出されますが、現代では岩手の夏も同じくらい暑いです（苦笑）

2日目は広島支部発表による第5分科会に参加。『学校教育目標を達成し、子どもの育ちを支援する学校事務を「守る・打つ・走る」連携プレーでチームをつなぐ』をテーマとしたレポートで、野球に例えた表現を多用しながら広島県事研が策定したビジョン「広島風おこのみプラン」や「つかさどる事務職員」に迫っていく内容でした。



（ 次のページへ続く ）

他からの要望に「受動的」に応えるだけから、自ら考えて行動する「主体的」を経て、他を巻き込んだ取り組みを展開していく「能動的」な学校事務へとシフトしていくことが、「つかさどる」ことに繋がるなどの提案がなされました。後半は、参会者6名ずつでのグループワーク。グループで設定したテーマについてワークシート2種を用いて課題解決のための手立てを考え、組み立てていくものでした。多く挙げられた「私費会計の未納解消」をテーマに取り組みましたが、意見交換に多くの時間を割いてしまい、設定時間内でのワークシート完成とはなりませんでした。一方、全国各地からの参会者と共通のテーマでの交流は、大きな刺激となりました。岩手の実践がリードしているとされている部分の気付きや、日々の業務からは考えもしなかった角度からの視点が示されるなど、多くの収穫がありました。

8月上旬の開催でお盆の閉庁と合わせて長く学校を空けることとなり、その後のリカバリーが大変な面もありますが、特にも若い皆さまに積極的に参加していただきたいと感じた岡山大会でした。

課題解決 ストラックアウト (例)

2Why 動機 落ち着いて話をする場所がない	3Who 対象 ・児童生徒 ・教職員	4When 誰とかわる ・管理職 ・教務主任 ・生徒指導担当 ・保健部 等
5How Much 予算 ・カーテン ・インターホン ・机、いす ・パーティション ・ボード関連品 等	1What 目的 子どもと落ち着いて対応できる環境づくり	5When 時期 すぐにも
6How Many 規模 3カ所以上は確保したい	7How 手段 ・片付け(スペースづくり) ・時間軸での空き教室の把握 ・使用状況把握ボード	6Where 利用場所・箇所 ・空き教室 ・特別教室 ・相談室 ・休憩室

【発表例】
私たちのグループは(1)を目的として提案します。
課題設定の動機は(2)です。
その課題を解決することで対象となるのは(3)です。
それを解決するためには(4)の人たちと連携します。時期は(5)です。
その場所は(6)です。
(7)を(8)の範囲でします。
そのため(9)が必要で、
こうすることで(1)が達成できると考えます。

盛岡市立大新小学校 主査 門屋 剛

《大会の様子》



来年は

第52回全国公立小中学校事務研究大会(岐阜大会)

～子どもたちへとどけ未来へのぎふと～

2020年8月6日(木)～8月7日(金) 2日間開催

みなさまのご参加おまちしております！



功労者表彰 おめでとうございます

2名の方々の表彰が行なわれました



✽ 全国公立小中学校事務職員研究会功労者

高橋 広道 様 (奥州市立江刺東中学校)

【経歴】

平成 21～24 年 全事研評議員 (4期)
平成 25～29 年 全事研岩手支部長 (5期)



✽ 東北地区公立小中学校事務職員研究協議会功労者

米澤 倫子 様 (盛岡市立高松小学校)

【経歴】

平成 28、29 年 東北事務研理事 (2期)
平成 30 年 | 東北事務研副会長 (1期)



高橋広道様は 8月7日に岡山市で行われた全国事務研令和元年功労者表彰において、9名の受賞者を代表してご挨拶をなさいました。

岩手県公立小中高等学校事務職員連絡協議会

令和元年8月30日(金) 会場：サンセール盛岡

本協議会のほか、岩手県公立学校事務長会、岩手県公立高等学校事務職員協会、岩手県立学校事務職員組合、岩手県教職員組合事務職員部、岩手県公立小中学校事務長会の6団体から、28名が出席し、それぞれの活動について情報交流し連携を深め、事務改善等につなげるために連絡協議会が開かれました。会議では、主に以下の話題について、各団体から積極的に意見交換や情報交換が行われ、有意義な交流の場となりました。

《主な議題》

- ・小中学校の共同学校事務室について
- ・働き方改革業務のスクラップアンドビルドについて
- ・36協定の状況について
- ・エアコンの設置状況について
- ・私費会計並びに給食費公会計化について
- ・コミュニティスクールについて



編集後記

おかげさまで、岩事研広報206号を発行することができました。全国大会の様子等、皆さまに少しでも伝えることができましたら幸いです。

今号の発行につきましては、大会の感想をご寄稿いただいた4名の方を始め、写真のご提供等、たくさんの方々に多大なご協力をいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今後も広報の一層の充実を図ってまいります。宜しくお願いいたします。